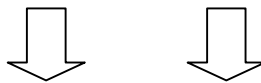


2007年7月

『致知』で元気に！

社内木鶏 訪問記

B Y 『致知』編集部



第1回

(有)細谷



↑有限会社細谷のみなさん。みなさん晴れ晴れとして楽しそうですね！社内木鶏後の生き活きた表情をよく写した一枚です。(*_*)/♪

『致知』を通して社内での活性化に取り組み企業が増えています。『致知』を購読し仲間の誼後感発表を聞くことで、社長の思いや人間として大切な価値観に気づいたり、仲間の素晴らしい長所が見えてきたり数多くの発見があると言われています。今回は(有)細谷様の取り組みを通して、そのことを見ていきたいと思います。

(有)細谷は昭和二十年創業の会社。現在は東京葛飾区のお花茶屋と横浜市西区で美容院や理容院、エステサロンを経営しております。社長の細谷明規さん(三三三)は三代目。仕事を愛する大変情熱的な若手経営者です。

二十人の社員さんにとのようにしてやり甲斐を持ってもらえるか、日々そのことに心を砕いてこられました。しかし、なかなか思うような結果は出せなかったそうです。

「以前はシステムや給料でスタッフは満足してついでてくれると勘違いしており、お客様はもちろんスタッフの定着率も悪く、ジレンマに陥っていました…」

細谷さんが知人の紹介で『致知』を購読するようになられたのはそういう時でした。『致知』はやがて細谷さんの仕事や人生に大きな影響を与えます。『致知』による学びを次のように述べられています。

「購読して三年が経つうちに、経営者としての

使命・志が見え、自然とスタッフの定着も良くなってきました。経営も、多くのお客様に支持していただけのままで発展してまいりました」

そして、細谷さんのその思いがやがて社内木鶏会の開始につながっていきました。

細谷さんは今年四月の入社式で全社員二十名に『致知』を年間プレゼント。その後、四月十六日、十七日の合宿に合わせて全社員で第一回社内木鶏会を開催されました。

細谷さんの司会進行のもと、皆で人生について本気で語り合い体験を共有する中、次第に話は盛り上がり、会場は熱いムードに包まれました。難病で療養中の父親から「俺のことは心配するな。自分の信じた道を歩め」と逆に励ましを受け親の思いを知ったという男性スタッフの感動的な話も披露され、皆さん目を熱くしていらつしやいました。

細谷さんは「最後は私自身も含めスタッフ皆の目には涙でした。こんなに正直に、しかも心からの共感を持って仲間の人生・魂に触れ感動する。社員の話を聞き、いままで幾度となく『なんでこんなことができないんだ！』『お前のせいでこんなになってしまっんだ！』と口走ってしまった自分を恥ずかしく思い、こんなに素晴らしい社員に囲まれてなんて幸せなんだ！と心から思えるようになりました」と感想を述べられています。【2頁に続く】



初めての試みでも楽しかったです。世の中にはいろいろな勉強をしている人が何人もいるかと思うと、驚きです。これを活かして

(有) 細谷は大きくなりませう。
(中村典夫さん 十五年目)

『致知』を読んでいると、色々なドラマを知り、自分自身を素直に見つめる事ができる素晴らしい本です！ 毎月楽しみです。

(長谷川和哉さん 七年目)

色々な人の思いと自分の思いを比べ、自分だったらどうするのかなどすごく考えさせられました。『致知』との縁を生かし、いろいろな考え方をしていきたいと思っています。

(鈴木美保子さん 一年目)

※(有)細谷データ

①業種 美容業 ②代表者 細谷明規 ③創業年 945年 ④資本金 500万円 ⑤社員数 20名 ⑥住所 東京都葛飾区お花茶屋1・23・11 横浜 市西区南幸2・14・15清水ビル内 ⑦TEL、FAX 03・3604・0930 ⑧Eメール hosoyabeauty@oboe.ocn.ne.jp



社内木鶏ニュース!

姫路で初の社内木鶏説明会

社内木鶏に関心をお持ちの企業関係者を集めた**社内木鶏クラブ説明会**が五月九日(水)、姫路市の姫路キャッスルホテルで開催されました。

『致知』を通して会社を活性化させようと、社内で木鶏クラブを立ち上げる企業が増える中、すでに社内木鶏を取り入れている企業の話を通して、社内木鶏への理解を深めていただくのがねらいです。全国に先駆けて開かれた今回の説明会には、**兵庫県や岡山県などから二十五社、四十人の経営者、社員の皆さんが参加**されました。

開会の挨拶に続いて、全国木鶏クラブ全国代表世話人会の三木英一会長、姫路経営者協会の田口利秋会長からご来賓祝辞をいただきました。

この後、社内木鶏のメリットや事例を紹介するDVDが放映され、社内木鶏に熱心に取り組まれている(株)大町の秋山秀行社長と(株)日伸電工の赤松高吉社長に、それぞれ具体的な自社での取り組みをご紹介いただきました。

ともに『致知』に寄せる思いや期待、社内木鶏を始めるようになったいきさつ、読後感などを交えながら、社員の仕事ぶりや社内のムードがどのように変化していったのかを中心に話され、皆さんは熱心に耳を傾けていらっしゃいました。

私たちの社内木鶏

本コーナーでは社内木鶏の活動をご紹介します。
今回は日伸電工様、ヴェルデランド様の二社の
取り組み事例です。

株式会社 日伸電工

■社長の思い、社内木鶏を始めたいきっかけ

経営に対する志や思いを共有するために、人間力を養い「ありがとう」をたくさん発信できる社風をつくるために始めました。



赤松高吉社長

■開催状況

- ・頻度：月一回
- ・時間：就業時間後に一時間半
- ・運営方法：進行役は、軌道に乗るまで社長が務めますが、今後は役員に順次移る予定です。
- ・グループ分け：現状では一グループ制ですが、適宜内容によってグループ分けを行う予定です。

■継続させる秘訣

- ・参加者：自由参加（十二〜十五名）
- ・社長が「本気」であること。
- ・立ち上げたばかりなので、継続させることを一つの目標に置き、気楽に参加出来る雰囲気をつくっています。例えば、その日の出来事などから入り緊張感をほぐします。

- ・人の意見や発言に対し批判・批評をしない、させないようにしています。
- ・参加者、不参加者に溝をつくらないように、参加していない人への配慮を怠らないようにしています。



■社内木鶏クラブに参加しての感想

●私にとって木鶏クラブは、ありのままの心情を吐露することができる場であり、他の参加者の素晴らしい思考力を借りて自己を育成する場でもあります。

元来読書は好きでしたが、『致知』と出会い傾向が変わってきました。最近では哲学的な（人生や生き方、働くことについて考える等）本を愛読するようになりました。
まだまだ未熟で自社の「経営理念」を完全に

理解できてはいませんが、今後も社内木鶏クラブに参加し続け自己研鑽に努めます。
（西村秀一さん・四三歳）

●私は日頃何事においても、人も自分の考えや思いと同じであるという錯覚に陥り、失敗することが多々あります。

木鶏クラブに参加して『致知』の読後感を聞いてみると、様々なとらえ方があり、違う角度から物事を見る勉強になりました。

これからも、毎回参加して視野を広げていきたいと思えます。
（宮本仁美さん・三六歳）

●『致知』の読後感を拝聴していると、自分の中にある小さな迷いや疑問が穏やかに解決していくのが自分で分りました。本当に素晴らしい場であることを実感するとともに感謝の気持ちで一杯になります。

今後も感謝の気持ちを持って参加し、人との繋がりを大切にして自己育成に努めていきます。
（前田ちか子さん・四七歳）

- ①業種：アルミダイカスト製造業
- ②代表者：代表取締役社長 赤松 高吉
- ③創業年：昭和 49 年
- ④資本金：1000 万円
- ⑤社員数：55 名
- ⑥住所：兵庫県たつの市揖保町中臣 671-1
- ⑦TEL：0791-67-8712
FAX：0791-67-1512
- ⑧Eメール：nissinym@tatsuno.or.jp

■社長の思い、社内木鶏を始めたきっかけ

接客業として日々の業務に追われているうち、従業員が基本的なマナーは身につけているけれども、大切な「読むことと書くこと」が疎かになっていくと気づきました。『致知』を読み始めることで、さらに人への思いやりの大切さや仕事への情熱を維持するのにも大変に役立っております。



竹内陽子社長

■開催状況

- ・頻度：月一回
- ・時間：販促会議の終わりに三十分
- ・運営方法：竹内勝彦専務が進行。各社員が感想を読み、部長・専務で最後に講評。
- ・参加者：会議参加者全員（六名前後）

■継続する秘訣

テーマ選びは会社側の伝えたいキーワードが書かれているものを選ぶようにし、方針伝達にも役立てています。そうすることで皆が真剣にお互いの話を聞いて着眼点や考えの相互理解が深まり、社員同士、心地よい刺激になっています。

■社内木鶏クラブに参加しての感想



●人はだんだん欲深くなくなってしまいうのですが、いまこうして生きていることへの感謝、健康でいられることへの感謝など、当たり前と思うことをもつと大切に生きていかなければいけないのだと痛感しました。

（浅野直子さん・二五歳）

●落ち込んだ時や仕事に行き詰まった時に、『致知』のいろいろな人の経験や生き方、考え方を思い出すことで、元気が出てきます。仕事上でアルバイトさんに大きな声を出してもらうために苦勞していた時、自分が先頭に立って行動したところうまくいきました。努力の素晴らしさ

を『致知』で読んでいたからこそ、パワーを出すことができたと思います。

（鳥内江美子さん・三三歳）

●当初は感想文を書くことに抵抗を感じていましたが、毎月読み進めるうちに一人の人間の成功や失敗、結果を得るまでの苦難に触れ、人の人生から学ぶ大切さ、『致知』を読む楽しさに気づきました。大きな目標を達成できる人間になるためにも、信念を貫き通す心の強さを身につけたいと思います。

（細田智之さん・二六歳）

●仲間と感想を発表すると、同じものを読んでも着目する部分や受け止め方が異なることに気づき、面白いものです。人それぞれの考え方の違いのために物事を誤って伝えないう、スタッフ間の連携を密にし、仕事上の人間関係を大切にしていきたいと思っています。

（井坂雅人さん・三五歳）

- ①業 種：サービス業(遊技場経営ほか)
- ②代表者：竹内陽子
- ④資本金：5000万円
- ⑤社員数：90名
- ⑥住 所：埼玉県上尾市中妻3-11-2
- ⑦電話：048-775-7473
FAX：048-775-3283
- HP：http://www.verdeland.jp
- ⑧Eメール：
soumu@verdeland.jp

社内木鶏☆お悩み相談室

つね

社内木鶏を始めるといっても、主宰する経営者、幹部の皆さんにはいろいろな不安や戸惑いもある

ことでしょう。このコーナーでは致知出版社に寄せられた相談内容の中から、その主なものを紹介していきます。

■仮に始めてもなかなか長続きしないのではないですか？

A, トップの決意次第です。「社員の人間力向上が社業の発展に直結する」という認識のもと、必ず月例でやると決めて取り組んでいかれたら、時間の経過とともに社業と一体化していくはず

です。
中国の古典『大学』には「徳は本なり。財は末なり」とあります。二千五百年前でも現代でも基本は同じ。まず「人間としての徳性を高める」ことだと思えます。

■どのくらいの頻度で開催するのが望ましいですか。また人数、時間は？

A, 毎月一回、中旬から月末にかけて曜日と時間を決めて行うとよいでしょう。人数は十人から二十人くらいで、一時間半程度の時間をかけて開催するとよいのではないのでしょうか。二十人を超える場合は、十人前後の小集団で開催した上で、終了時にグループごとの発表を聞くのもよいでしょう。

■参加は義務づけるのがよいのですか。それとも自主性を重んじたほうがよいのでしょうか。

A, あくまでも「社業発展の原点」と捉えた上で行うのですから、対象者についてはできれば義務づけた方がよいと思います。

自主性を重んじることも重要ですが、原則として参加対象者にはこの勉強会を最優先事項としてスケジュールを調整してもらい、積極的なムードをつくるのが大切です。

■具体的な進め方は？

A, 『致知』が届いたら、できるだけ「読むページ」を決めて、メンバーは開催日までにそのページを読んで感じたことを整理した上で、参加します。社長様なり幹部の方がリーダーとなり、各自二、三分読後感を発表。最後にリーダ

ーがコメントを付け加えることが重要です。

また、お互いに参加者の発表について感想を述べあうことで思いの外、感動、共感、そして学びを得ます。この時間を必ず確保するようにしてください。

■参加者に本を読む習慣がないので、きちんと発表ができるかどうか心配です。

A, 社内木鶏クラブの重要なポイントは素直な気持ちで、自分の感じたままを述べ合うことです。決して模範解答のようなものはありません。また仲間の話をよく聞く姿勢を身につけることや仲間の気持ちをしっかりと受け止めることも大切です。

決められた何箇所かのテーマの中から、自分が気に入ったページを読んでいただき、素直な感動や思いを述べ合うことで、お互いが共感し合い一体感を感じることができます。「案ずるより産むが易し」です。

* * *

※社内木鶏クラブを始めたいとお考えの方は致知出版社・普及部までお問い合わせください。弊社ホームページにて動画で社内木鶏クラブの様子をご覧いただけます。「社内木鶏」で検索してください。Tel 03・3409・5632
<http://www.chichi.co.jp/shanai-mokkei.html>

社内木鶏会をお訪ねして

致知出版社社員のごはればなし♪

■ □ ■ □ ■ □ ■ □

細谷さんの勉強会が行なわれるサロンに着いてまず驚いたのが、スタッフの皆さんが非常に明るいこと。元気な声で「よろしくお願います！」と出迎えてくれ、**明るさは組織の力だ！**と肌で感じました。

『致知』の読後感の発表で、一人の社員さんが自分の体験と重ね合わせて思わず涙ぐむ場面もあり、私も胸が熱くなりました。家族的でありながら、一人ひとりの個性と成長を大事にする素晴らしい社風の会社だと感じます。終了後にスタッフの皆様から心のこもった「寄せ書き」を送っていただき感激しました。(森本)

■ □ ■ □ ■ □ ■ □



「障害を持つ人たちが頑張る姿を見れば、健常者の人たちも勇氣と元氣をもらえる」という信念を持ち、障害者の方々を採用した日伸電工さん。

彼らにとって会社はかけがえのない場所であり、その場所をよりよい場所にすることが社長の使命と言いつける赤松社長のお姿は情熱で満ち溢れていました。

改めて**社内木鶏は社員同士のコミュニケーション作り**の場でもあるのだと感じました。

※補足ですが、以前は厳しい指導をしていたのですが、社内木鶏を始めてからあまり怒らなくなつたそうです(笑) (平峰)

■ □ ■ □ ■ □ ■ □

社内木鶏を始めてから、**社員の人間的厚みが増してきた**というヴェルドラントさん。始めて一年近く経ちますが、今では『致知』の内容を自分と重ね合わせて考えられるようになったといえます。

また、営業日誌に毎日その日やったことを書くのですが、その内容が前向きになってきたとおっしゃっていたのが印象的でした。(登藤)

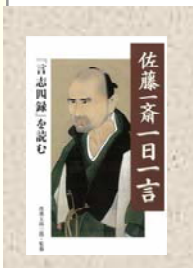
《編集だより》

◎社内木鶏通信を創刊しました。まだまだ手探りの状態ですが、回を重ねるごとにいい紙面にしていきたいと考えています。(元)

○ゼロからの手作りのため、メンバー全員で(ない?)知恵を出し合い何とか発行に辿り着きました。皆様が『致知』を大切に思ってくださっていることを知り、編集者としての幸福を味わわせていただきました。(乙)

●少しでも皆様のお役に立ちたいと思って始めた木鶏通信作り。新しい試みで四苦八苦しながらも、楽しく親しみやすい誌面を目指して頑張りました。今後ともよろしく願います!(ゆ)

致知出版社 おすすめ書籍……



渡邊五郎三郎監修

『言志四録』は、門弟三千人を数える江戸時代の儒学者・佐藤一斎が四十余年をかけて書き上げた人間錬磨の語録集。西郷隆盛も座右の書として愛読した金言の数々から、心の糧となる三六六を厳選した「一日一言」。

大好評「一日一言」シリーズ待望の最新刊！
『佐藤一斎一日一言』

発行：致知出版社 社内木鶏通信発行係
〒107-0062 東京都港区南青山6-1-23 tel:03-3409-5632